



ヘリコバクター・ピロリ(ピロリ菌)の感染診断と除菌治療の流れ

©copy. 1995-2013 Takeda Pharmaceutical Company Limited. All rights reserved.

ピロリ菌とは?

1982年にオーストラリアのウォーレンとマーシャルにより発見された、らせん状の細菌です。長い間、胃には胃酸(塩酸)が存在するため細菌は存在しないと考えられてきましたが、それではなぜこの菌は胃の中に生息できるのでしょうか?それはこの菌が持っている特殊な酵素がアンモニアを生成し、アンモニアによって胃酸を中和するからです。この菌が胃粘膜に感染すると、数週間から数カ月で胃炎をひきおこします。感染は生涯にわたって持続することが多く、この粘膜の慢性活動性炎症を背景として、胃・十二指腸潰瘍、胃癌等の上部消化管疾患を引き起こします。

感染経路

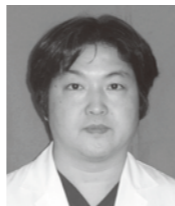
現在、はっきりとは分かっていませんが、ピロリ保菌者の吐物、糞便に混ざって体外に排泄され、その後、水・食物・手指等を介して口から体内に入り、他の人の胃内に定着すると考えられています。ピロリ菌は小児期までに感染し、それが持続感染していると考えられており、成人への初感染はまれで、感染したとしても一時的で、持続感染はしないことが多いとされています。

日本人の感染率

現在、日本人の感染率は約50%、約6000万人がピロリ菌の感染者と言われています。そしてピロリ菌の感染率は、衛生環境と関係していると考えられていますが、上下水道が十分に整備にされていなかった時代に幼少期であった50歳代以上の日本人の感染率は約70%、一方、10歳代~20歳代の衛生環境の整った世代では、30%前後と言われています。

検査法

内視鏡検査または造影検査において、胃潰瘍または十二指腸潰瘍の確定診断がなされた患者、胃MALTリンパ腫の患者、特発性血小板減少性紫斑病の患者、早期胃癌に対する内視鏡治療後の患者、内視鏡検査においての胃炎の確定診断がなされた患者に対して、ピロリ菌の感染診断を行うことができます。診断法には内視鏡を用いて胃の組織を採取して行う方法や、培養法、迅速ウレアーゼ試験と内視鏡を用いなくても可能な血液や尿、息や便を用いた方法があります。



内科 鈴木 拓也

除菌治療

ピロリ感染と診断されたら、除菌療法を行います。具体的には、胃酸を抑える薬と抗生剤を合わせた3剤併用療法(一次除菌)を行います。一次除菌でピロリ菌が消えなかった場合は、抗生剤を変更した3剤併用療法(二次除菌)を行います。副作用としては、下痢、軟便が約10~30%、味覚異常、舌炎、口内炎が約5~15%、皮疹が約2~5%等の報告があります。その他、ペニシリンアレルギー、口腔内苦味感などが挙げられます。

除菌後のフォローアップ

除菌に成功しても安心はできません。除菌後の再感染の可能性は年間0.2%から2%あります。また除菌後も胃癌発生の可能性が3分の1残り、数年以内に100人に1~2人の割合で胃癌が発見されます。ヘリコバクター・ピロリ感染歴のある人は、未感染者の150倍くらい胃癌になりやすいため、除菌でリスクが3分の1に低下しても、未感染者の50倍くらい胃癌になりやすいわけです。したがって、除菌後も定期的に胃の検査を行うのが妥当であると考えます。

新任医師紹介

「10月1日より赴任しました」



■小児科
金城 健一(きんじょう けんいち)
得意分野/一般小児科
趣味/旅行、
スキューバダイビング

●患者さまにメッセージ
患者様にわかりやすい診察を心掛けていきます。

「インフルエンザ」

インフルエンザは周期的に世界で大流行する感染症です。2009年には新型インフルエンザとして「H1N1型」が流行しました。インフルエンザと風邪の違いは、高熱(38度以上)が出ると共に筋肉痛や関節痛が出現することです。感染の仕方は飛沫感染で、咳やくしゃみによって飛び散るしぶきの中にウイルスが存在し、それを吸い込むことによって感染します。インフルエンザに感染すると合併症を起こし重篤になる人もいます。高齢者・乳幼児・妊婦・慢性の肺の病気・心臓病・腎臓病・免疫機能が落ちている人などは特に注意が必要です。

それではインフルエンザの感染予防はどうすれば良いのでしょうか。1番の予防策は「予防接種」をすることです。接種して抗体ができるまでには2週間かかるといわれていますので、遅くとも12月中に接種することをお勧めします。予防接種を受けたからといって絶対インフルエンザに感染しないとはいえませんが、たとえ感染したとしても症状が軽くなります。

その他の予防法としては、うがい・手洗いです。外出から戻った時は石けんで手を洗い、うがいをしましょう。インフルエンザが流行し始めたら人混みや繁華街への外出は避けましょう。マスクは基本的には咳をしている人が着用しますが、布製のマスクよりも不織布のマスクの方がウイルスを吸い込みにくいので、購入される際にはマスクの性能を確認して下さい。また、予防のためには日頃からバランスのとれた食事を取り、十分な休養を心がけましょう。インフルエンザウイルスは乾燥した環境を好みますので室内の湿度は50~60%に保ちましょう。



インフルエンザかな?と思ったら医療機関で検査することで診断できます。インフルエンザの治療薬は症状が出てから48時間以内に内服するとウイルスが増えるのを押さえることができます。出された薬は熱が下がったからといって止めずに、指示通り飲みきりましょう。

インフルエンザを予防し、寒い冬を乗り切りましょう。

(文:医療安全管理室 佐藤 美由紀)

仕事の合間にストレッチでリフレッシュ!

パソコン作業の増加や運動不足で身体のあちこちが疲労していませんか?仕事の合間に簡単にできるストレッチで身体も脳もリフレッシュしましょう。2回シリーズでご紹介します。

Vol.1【上半身のストレッチ】



●首のストレッチ

- ①手で頭に重しをかけるようにゆっくり引っ張る。
- ②左右交互に行う。



●背中ストレッチ

- ①頭の上で手を組んで真上に伸びをする。
- ②座っても立っていても良い。
- ③立つて行う場合は足の裏をつけたまま行うこと。



●肩のストレッチ

- ①腕を胸の前に出し、反対側の手を引っ掛ける。
- ②胸に腕を押し付けるように押していく。
- ③左右交互に行う。



●腕のストレッチ

- ①腕を後ろにまわし、反対側の手で肘を持って後ろに送る。
- ②左右交互に行う。

注意事項

- ①ゆっくり深呼吸をして、息を止めないこと。
- ②痛いところまで無理に行わず、気持ちのいい範囲で行うこと。
- ③反動を付けて動かさないこと。